

さきたま古墳公園における「子どもの遊び場」整備事業に係る 民間活力導入検討に関する第2回サウンディング調査の結果について

1. 調査の目的

行田市（以下、本市という）では、埼玉県との間で「さきたま古墳公園における子どもの遊び場の設置等に向けた協議に関する協定書」を締結し、埼玉県が管理するさきたま古墳公園内の古代の森及び古代の草原エリアに「子どもの遊び場」を設置し、管理及び運営を行うことについて、検討を進めています。

「子どもの遊び場」事業推進にあたっては、民間事業者の皆さまとも連携を図り、設計建設・管理運営事業について官民連携事業として推進したいと考えていることから、民間活力導入の検討にあたり、サウンディング型の市場調査（第2回）を実施しました。



さきたま古墳公園位置図（広域図）



事業対象地位置図

2. 調査対象地

市内東部に位置するさきたま古墳公園は、国の特別史跡である「さきたま古墳群を有する公園（都市公園42ha）」として、多くの方に利用されています。事業対象地の「古代の森・古代の草原ゾーン（約4ha）」は公園内の北西部に位置しており、古墳への眺望を確保しています。

3. 調査の経緯

項 目	スケジュール
調査実施公表（実施要領公表）	令和8年7月13日（月）
ヒアリングの実施	令和8年8月5日（水）～8月28日（金）

4. 調査の参加状況

対話の参加者・・・・・・・・・・ 2 2 社

5. 調査結果の概要

いただいたご意見の調査結果概要を以下に示します。

1) 参画意欲等について

A. 参画意欲

- ・参加者の約5割が「参画意欲がとてもある」、約4割が「参画意欲がある」との意向であることが把握できました。

B. 参入範囲

- ・参入範囲は「施設毎に事業参入したい」が多く、一部「全体を対象としたい」とのご意見もありました。
- ・参入の可能性がある施設は「屋内遊び場」、「屋外遊び場」が最も多く、次いで「子育て支援施設」が多い結果となりました。

C. 参入形態

- ・参入形態は「複数の企業によるコンソーシアムを組んで参入したい（共同事業体）」というご意見が多数あり、「代表企業として参入したい」、「構成企業として参入したい」とのご意見もありました。

2) 事業手法等について

A. 事業スキーム

- ・市が想定している事業スキームに対するハードル感は、「感じる」、「どちらともいえない・わからない」の回答が分かれる結果となりました。
- ・「感じる」「どちらともいえない・わからない」の理由は、「複数の企業によるコンソーシアム（共同事業体）を組む必要がある」、「民間企業による独立採算での事業参画は難しい」、「現段階では判断できない」等の回答がありました。
- ・事業スキームは、「民間提案施設を、民間企業の独立採算事業として民設民営とすることは難しい」とするご意見が多数ありました。
- ・事業範囲の分担に関して、設計・施工・管理運営までを包括的に実施するスキームは、効果的かつ効率的に事業推進できるというご意見がありました。
- ・整備費用の分担は、民間提案施設と公的施設の施設種別があるなかで「遊び場を主体とする公共性の高い施設であるため、整備費用は公共で負担すべき」とのご意見がありました。
- ・なお、民間事業者の独立採算事業とする場合には、施設計画や料金設定に一定の自由度が必要との意見がありました。

B. 事業期間

- ・事業期間は、民間提案施設を、民間企業の独立採算事業として民設民営とする場合の整備費用も含め、運営で回収するためには「10年以上（最大20年）」との意見が多数ありました。

C. 概算事業費

- ・概算事業費は、建設資材や人件費等が引き続き高騰していくことなども踏まえ、精査が必要であることが意見として挙がりました。

3) モデルプラン（案）について

A. 施設配置・建築様式の考え方

- ・モデルプラン（案）の施設配置は、「一部見直した方がよい」という意見が最も多く、次いで「どれともいえない・わからない」との意見もありました。
- ・遊び場施設（建築）は、「一棟合築でよい」、「どちらともいえない・わからない」の回答が分かれる結果となりました。
- ・「一棟合築でよい」、「どちらともいえない・わからない」の理由は、「利用者にとっては一棟で機能が集約された施設のほうが利用しやすい」、「分棟よりも一棟合築がコストを抑えられる」、「管理区分やリスク分担を明確にする場合は分棟が望ましい」等の回答がありました。

B. 導入機能（案）・施設規模

- ・導入機能（案）は、「どれともいえない・わからない」という意見が最も多く、次いで「一部見直した方がよい」との意見もありました。
- ・子育て支援機能は、「導入したほうがよい」が5割以上と多数の意見がありました。
- ・駐車場台数は、「どれともいえない・わからない」が最も多く、次いで「今のままでよい」が多い結果となりました。
- ・各施設規模は、「どれともいえない・わからない」が最も多く、次いで「一部見直した方がよい（過不足がある）」が多い結果となりました。特に、屋内遊び場施設の規模については、モデルプラン案より充実を求める意見が多くありました。

6. 今後の予定

今回いただいたご提案やご意見を参考に、さきたま古墳公園における「子どもの遊び場」整備の基本計画、事業スキームの検討を引き続き行います。次回のサウンディング調査に関する具体的なスケジュールが決まりましたら、行田市ホームページ、および「行田市さきたま古墳公園『子どもの遊び場整備』官民連携プラットフォーム」等で公表する予定です。

本調査にご参加いただいた民間事業者の皆様に感謝を申し上げます。